

東京労働界 革マル分子 年輩者を名指しで落書、クビに汚



84.10.24
No. 1774

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二（二）七二〇七

「三本柱」の先兵「労働本部」革マルを断じて許すな！

すべての組合員のみならず！
今日、労働の職場、とりわけ東京では実におぞましい暴力「オルグ」が行われている。年輩の労働者を取り囲んで「やめる」と強要し、便所には名指しで落書が行われ、靴の中に入れてといういやがらせなど……。これが労働組合と言えるか？ ファンストの所業ではないか。断じて許すな！

年輩者をとりかこんで「やめろ！」

クビ切り「三本柱」を率先「片仕切り」した労働「本部」は、当局の労働千葉・国労等に対する「交渉うちぎり」―「雇用安定協約の一方的破棄通告」攻撃に呼応して、前代未聞の暴力「オルグ」にはしっている。
東京のA電車区、H機関区などでは、こともあろうに年輩の労働者に対して「役員」の名をかたる革マル分子が、よつてたかつてとり囲んで「早く退職するように」と強要し、聞くに耐えない差別的な悪ばをあげている。

それでも、じつと耐えて仕事を続けようと頑張っている年輩組合員に対して、今度は便所という便所のなかに名指しで落書をしてまわり、あげくの果てにはその年輩者の靴のなかに汚水を入れるなどという絶対に許すことのできない陰湿ないやがらせを行っているのだ。
しかも当局は、そしらぬ顔で「見て見ぬふり」をしているばかりか、積極的にそれをそそのかしているのである。

松崎「この際、恥も外聞もなし」（労働東京地本大会）

こうした暴挙の張本人こそ労働東京地本委員長の松崎であり、責任は重大である。
松崎は、8月28日の東京地本大会において、「三本柱」をはじめとする「十万人クビ切り」攻撃に対して「この際恥も外聞もありやしない」とわめきちらし、中曽根・臨調―国鉄再建監理委員会―国鉄当局の先兵となつて合理化を推進し、国鉄労働運動解体にやつきとなつているのである。そして周知のように、国労の8月スト方針に対しては、「断固ストライキをやれと言っているのは自民党と国鉄当局だけ」だとか、「労使会議は今やるべきなんだ」などと反労働者の立場をあらわにして、裏切り路線をひらき直っているのである。

これが労働の「職場と仕事を守る」「国鉄を国鉄として残す」―経営参加「再建フォーラム運動」の実態である。
今こそ革マルを一掃し、労働大改革をかちとり、総反撃にうつてよう。

11・10 国鉄労働者集会に結集しよう

どうしてこんな信じられないようなことが起っているのか？ 答えは簡単である。
それは、労働「本部」革マルが「三里塚と一線を画した」からであり、「ストライキ反対」の立場をとつたからに他ならない。
三里塚に背をむけ、労働運動の原則を投げ捨て、自民党や国鉄当局の側に立場を移行させた裏切り路線の「なれの果て」だ。

労働千葉の分離独立の正当性をしっかりと確信し、三里塚と国鉄を軸に反動中曽根に一矢むくいるたたかいに立ちあがろう。
0・0三里塚闘争の王到内勝利を引き継ぎ、1

「分割・民営化」、10万人首切り反対！「60・3」大合理化阻止！
反動・中曽根内閣打倒
11.10 国鉄労働者集会
日時 十一月十日（土）午後五時三〇分
場所 千葉県・教育会館大ホール
（千葉市中央、千葉地裁前）
主催 国鉄千葉動力車労働組合
内容 ・連帯のあしむ
・基調報告―労働千葉
・決意表明―各地方の国鉄労働者